

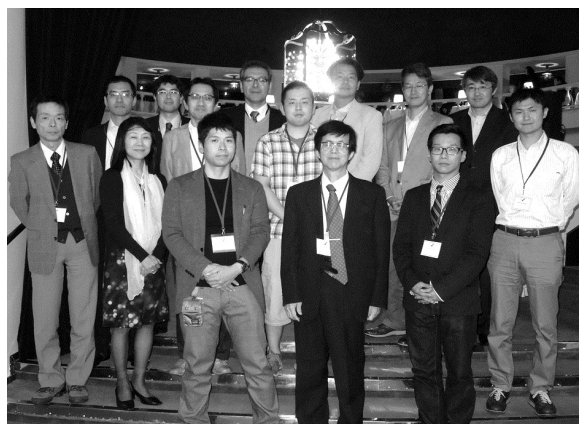
The 11th European Symposium on Thermal Analysis and Calorimetry (ESTAC11)報告

The 11th European Symposium on Thermal Analysis and Calorimetry (ESTAC11: 2014年8月18~21日)は、Prof. Vesa-Pekka Lehto (University of Eastern Finland) を実行委員長としてフィンランド共和国 (Espoo, Finland) で開催された。Aalto University の Dipoli Congress Centre を会場として、快適な環境の中で活発な議論が交わされるとともに、多くの熱測定の特 門家と親交が深められた。日本からは、木村先生 (近畿大学) をはじめとして19名が参加し、口頭発表とポスター発表をあわせて24件の研究発表を行った。

第1日目(8月18日)は、Opening Ceremony に引き続き、Prof. Markku Leskelä による“Volatility of metal complexes – the key property for application as precursors in chemical thin film deposition”と題した Plenary Lecture I により開催された。その後、Kinetics I (6件) と Inorganics I (6件) のセッションで一般発表が行われた。午後には、Dr. Mike Reading による Plenary Lecture II “The use of digital image processing for local thermal analysis and other techniques”の後、Poster Session I が開催され、Thermodynamics and Thermochemistry (29件)、Inorganic chemistry and Earth sciences (31件)、Nanostructured materials (16件)、Energetics (17件) の4分野で議論が交わされた。夕刻からの Espoo City Reception では、歓迎の辞の後、軽食を取りながら参加者と歓談した。

第2日目(8月19日)は、Prof. Christoph Schick による“Calorimetry on time scales from days to microseconds”と題した Plenary Lecture III により始まった。その後の一般発表では Kinetics II (6件) と Energetics (6件) が行われた。午後には、Prof. Jean Rouquerol による Plenary Lecture IV “Hesitations, imagination and teachings of the inventors of calorimetry over two centuries”で再開され、Thermodynamics (5件) と Inorganics II (5件) により議論が展開された。夕刻には Poster Session II が開催され、Kinetics (20件)、Pharmaceutics, Organic. Chem. & Life Sciences (22件)、Polymers and Biomaterials (26件)、Instrumentation and Methods (27件) のポスター発表が行われた。

第3日目(8月20日)は、Prof. Polycarpus Pissis による“Thermal transitions and molecular dynamics in complex polymeric systems”と題した Plenary Lecture V で始まった。その後、Polymers I (6件)、Instrumentation I (6件)、Pharmaceutics (5件)、Nanostructured materials (5件) の各セッションで一般発表が行われた。夕刻から、ボートで



日本からの参加者

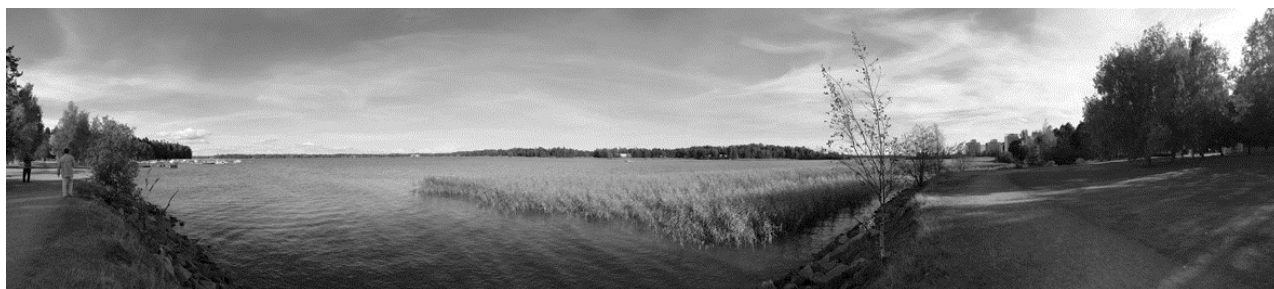
1時間ほど Espoo 沖を周遊した後、Hilton Helsinki Kalastajatorppa において Banquet が開かれた。フィンランドの民族舞踊や伝統楽器による演奏が披露され、日本からの参加者も各国の研究者とワインを傾けながら交流を深めた。

最終日(8月21日)は、Dr. Luis A. Pérez Maqueda による“Kinetics of solid state processes: a thermal analysis approach”と題した Plenary Lecture VI で始まり、Polymers II (4件) および Instrumentation II (4件) のセッションで議論が繰り広げられた。正午にすべての発表が終了し、Closing Ceremony とともに ESTAC11 は閉会となった。

研究発表の内容に関しては、Energetics の分野において熱分析による研究が盛んに行われていることが印象に残った。また、Kinetics のセッションでは、従来の速度論解析法に加え、異なる速度論的パラメータをもつ複数の反応が重複して進行する反応の速度論解析に対しては、実験で得られた速度論データに対して、実際に生じている物理幾何学的な現象論を基盤とした曲線フィッティングにより個々の速度論的パラメータを見積もる速度論的分離法を用いた速度論解析の有用性が議論されるなど、より詳細なアプローチにより研究が展開されている様子が伺えた。

今回は、4年後の2018年(8月26~30日予定)にルーマニア (Brasov, Romania) で開催される予定であり、学生を含めた多数の参加者を望むとのアナウンスがあった。

(防衛大学校 山田 秀人)



会場周辺の様子